

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善傾向にある。

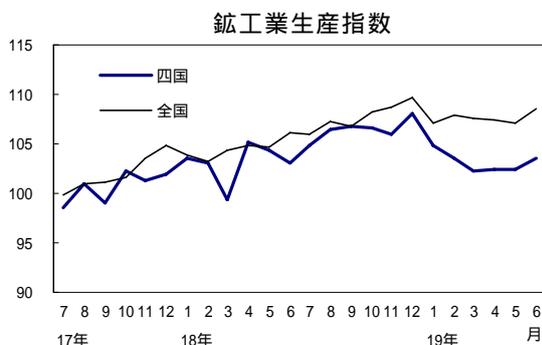
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 5 月)	今回 (平成 19 年 8 月)	
生産	緩やかに増加	このところ横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。

パルプ・紙は、新聞広告やカタログ等の需要は好調であったものの、包装用紙や新聞巻取紙が不調であったため、減少している。食料品・たばこは、清涼飲料水の生産が、管内工場に一時移管された影響により、増加している。電気機械は、デジタルカメラや蓄電池は好調であったものの、半導体集積回路が不調であったことから、おおむね横ばいとなっている。化学は、医薬品やBTX(ベンゼン、トルエン、キシレン)は引き続き好調であったが、石鹼・合成洗剤が低調に推移したため、減少している。一般機械は、造船・鉄鋼業向け固定式クレーンは引き続きおう盛な需要があるものの、金属工作機械が不調であったため、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
パルプ・紙	13.3	1.0	1.8	0.5	6.1
食料品・たばこ	13.3	3.4	2.1	2.3	1.0
電気機械	12.8	4.4	0.4	5.9	29.1
化学	12.7	4.1	3.3	3.8	14.2
一般機械	11.3	7.6	3.7	1.3	10.7
鉱工業	100.0	3.1	0.7	0.1	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4~6月期は速報値。

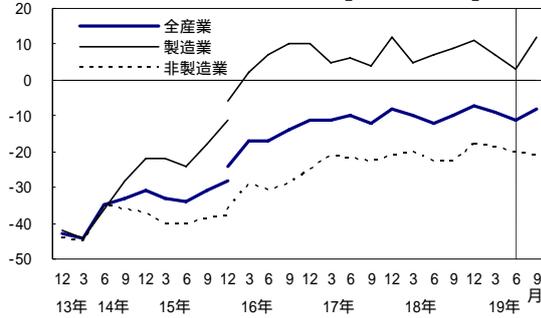
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年6月の四国は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

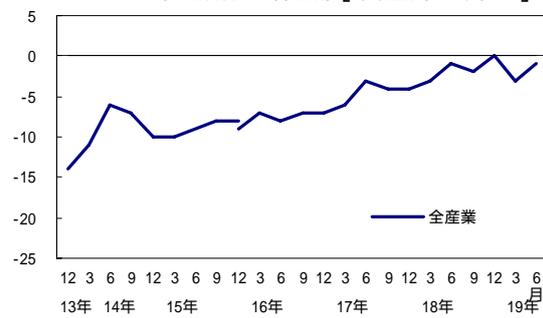
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



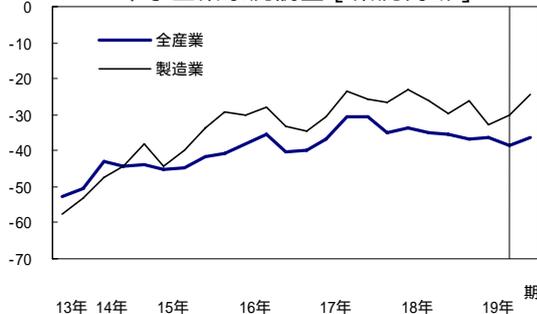
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「民間工事の見積依頼が増えてきており、休日返上で対応している。しかし、収益面では適正価格が確保できていない(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

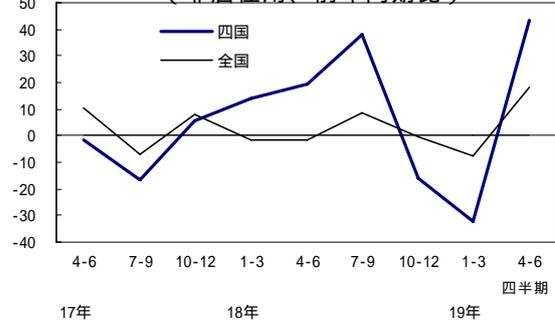
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	8.7 [10.7]	10.2 [9.8]
製造業	15.7 [23.7]	23.9 [10.7]
非製造業	2.5 [1.1]	3.8 [8.9]

(備考)[]は前回(3月)調査結果。

(%) 建築着工床面積 (非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

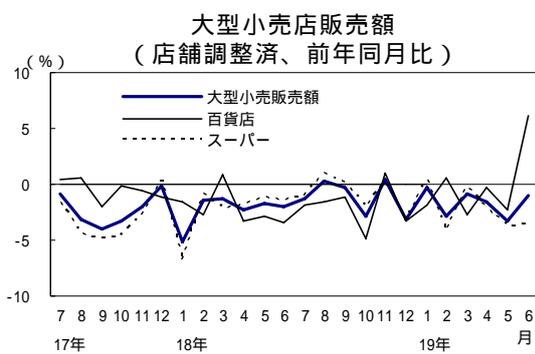
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、改装効果などから海外ブランド品が好調であったものの、物産展などの催事減少により飲食料品が低調であったことから、前年を下回った。5月は、食品催事が増加し飲食料品に動きが見られたものの、時計や美術工芸品などの高額商品が低調であったため、前年を下回った。6月は、夏物クリアランスセールの前倒しにより、衣料や身の回り品が好調だったことに加え、お中元の早期受注策が奏功したことから、4か月ぶりに前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の7月の売上高は、前年同月比で5.5%減となっている。

スーパーは、競合店との競争激化の影響などで、主力の飲食料品や身の回り品が低調に推移したことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「道の駅等での、旅行者の土産用酒は、単価の高い商品が以前より売行きが良くなっているが、地元景気という点では変わらない(一般小売店[酒類])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

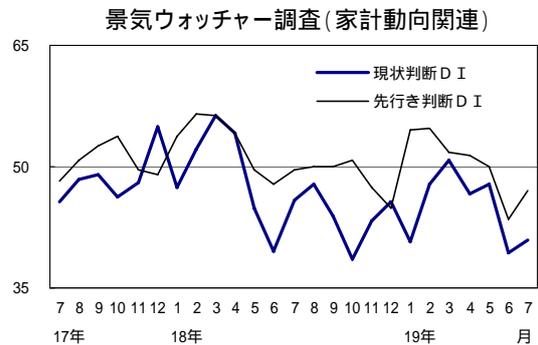
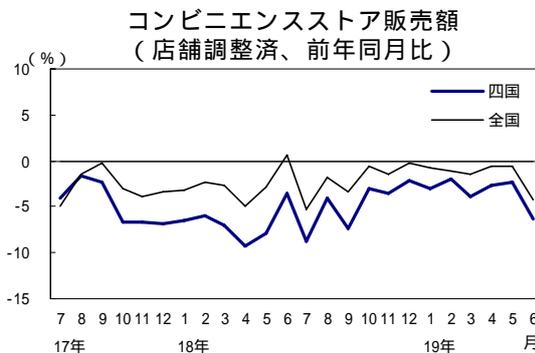


(前年同期比、%)

	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	0.5	2.0	1.3	2.0
百貨店	1.6	2.5	1.5	1.1
スーパー	0.0	1.7	1.1	3.1
コンビニ	6.6	2.9	3.0	3.8
景気ウォッチャー	45.8	42.5	46.5	44.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

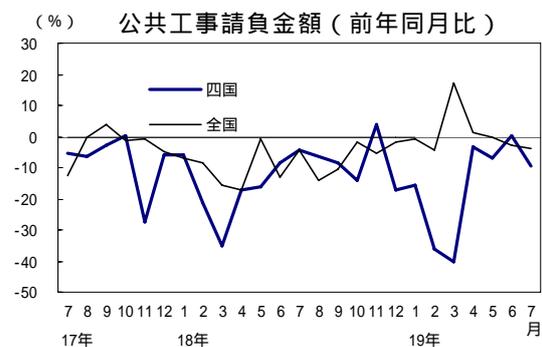
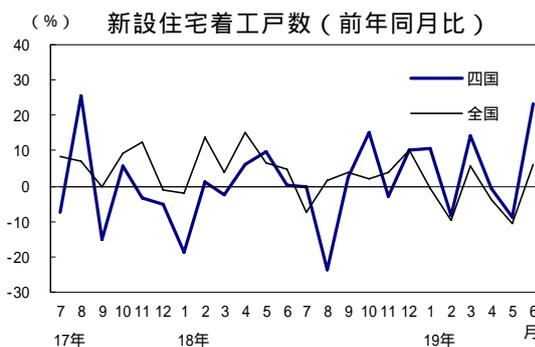
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

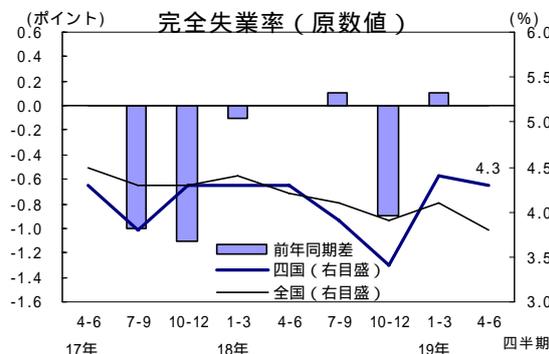
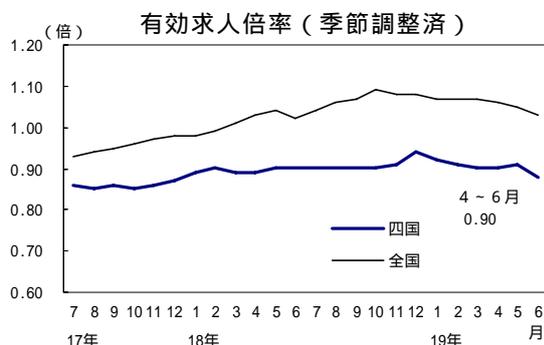


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

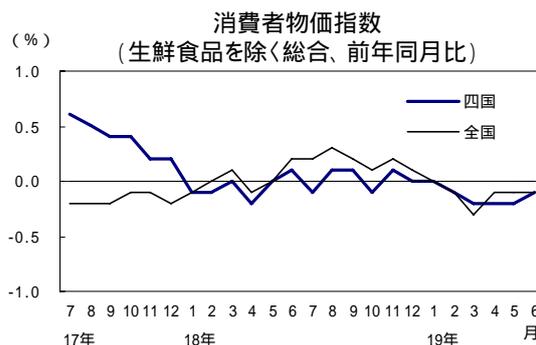
「40歳代男性など高収入が必要な年代の人まで仕事がなく、契約社員等の非正規雇用へ就職せざるを得ない状況である(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	111	93	79	106	33
(前年比)	44.2	43.1	5.3	19.1	26.7
負債総額	442	405	1,186	453	108.9
(前年比)	40.3	276.9	437.3	76.7	41.4



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・5月、6月と地元大手建設土木業者が倒産するなど、同業界は厳しい状況が続いている(金融業)

<先行き>

・予約状況が今までと比べて悪い。また、建設会社の破産等が続いているため、全体的に沈滞ムードが漂っている(都市型ホテル)

景気ウォッチャー調査(合計)

